

堺出島漁港 (さかいでじまぎょこう)



写真出典：堺市ホームページ[2012/8/15 現在]

http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_nousei/kau6.html

堺は、古くから開港場(かいこうば)として栄え、同時に漁業の根拠地(こんきょち)としても発展していたことは、鎌倉時代から伝わるといわれる「大魚夜市」(おおうおよいち)の行事からもわかります。

現在、堺市では堺[出島]漁港と石津漁港(いしづぎょこう)があり、4 漁業協同組合[組合員約 150 名]がシラス、イカナゴ、スズキ、カレイ、タチウオ、あなご、エビ類などの内湾性(ないわんせい)の魚介類(ぎょかいるい)を対象とする典型的な沿岸漁業を行っています。しかし、昭和 33 年[1958 年]から開始された堺泉北臨海工業用地(さかいせんぼくりんかいこうぎょうようち)づくりや、平成 6 年[1994 年]9 月の関西国際空港(かんさいこくさいくこう)開港により、漁場が制約(せいやく)されています。

Q. 堺出島漁港って今はどんなところ？

A. 本漁港(ほんぎょこう)周辺海域は埋(う)め立てられてしまったよ。それでもなお、現在、3 漁業協同組合[堺市・堺市沿岸・堺市出島]が漁業の本拠地(ほんきょち)としているよ。

出典：堺市ホームページ[2012/8/15 現在]

http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_nousei/kau6.html